

水

【発達領域】世界の探索



私たちはどんな所で水に触れているのでしょうか？
何気ない日常生活で水に出会うタイミングはたくさんあることに
今回のテーマを通して私たちも発見することが出来ました。

また、園生活でも毎日水に触れています。
お水を飲んだり、食事前に手を洗ったりするたびに『水』に触れ、
おいしい・冷たい・濡れた、などを言葉と感覚で覚えていきます。



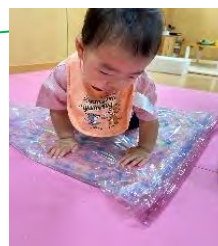
「これはなんだろう??」センサーバッグを見つけると不思議そうに近づいて
きて、初めは指でツンツン。

興味津々の子どもたち。

慣れてくるとそっと乗ってみたり、中のビーズやビー玉を指で追って捕まえよう
としたり、ほっぺをペタンとくっつけて冷たさを肌で感じ、目を閉じゴロゴロく
つろいでみたりする姿が見られました。

子どもたちのその表情や行動から“気持ち良さ”を感じとれました。

「冷たいね」「気持ちいいね」と保育者が気持ちを代弁すると「うんうん」と
頷いたり笑顔を見せたり、冷たさや水の感触を楽しむ子どもたちでした。



つんつん

おやつにこの夏初めてのかき氷が出ました。
コップの中を不思議そうに覗きつつ、その色や甘い匂いに
手を伸ばします。

指でちょっとつまんで口に入れてみるとその冷たさにいい
表情を見せ、あっという間に完食した子どもたちでした。
氷の冷たさを、見て、匂いを嗅いで、触って
食べて。

五感をフルに使い、食を楽しんでいました。



わあ〜! つめた〜い!





「雨、降ってるね」「お外、暗いね」と保育者の声掛けに窓から外をじ〜っと見つめる子どもたち。

雨が降る音や、車が通るたび聞こえる「ビシャッ!」という音に反応したり、外を指差して「あ!あ!」と雨の発見を保育者に知らせてくれたり、雨の音を「ザーザー」と言葉にする子どもたちです。

晴れているときとまた違った風景や音に、窓に張り付いてしばらく見入っていました。



びちゃびちゃ



ぎーぎー



つめた!



たらいに丸と四角い大きな氷を出すと、目をキラキラさせてすぐに集まってくる子どもたち。

指先でつんつん、手に持とうとしても滑ってつかめない、手が冷たくて持てられない・・・そんな子どもたちの様子や表情から保育者が気持ちをくみ取り言葉にします。

「つめたい」「びちゃびちゃ」「はっこい」など感覚だけではなく、「手」「足」など濡れた部位を言葉にする子や、濡れたら拭く、服が濡れて気持ちが悪いから脱ごうとする子の姿も見られ、遊びを通して普段の生活で必要な力も育っています。

溶けてきた水を手のひらでたたいた時のピチャピチャ!の音、とんでくる水しぶき、氷同士のぶつかる音など、見たり触れたり聞いたりして、感覚あそびをたっぷり楽しんだ子どもたちでした。

